

レファレンスだより 2016年8月号 No.165

福岡市総合図書館 図書サービス課 相談係 ☎092-852-0632

図書館では、情報を求める利用者に対して、図書館の資料と機能を活用して調査のお手伝いをする「レファレンス・サービス」を提供しています。法律相談や物品鑑定などお答えできない質問もあります。「レファレンスだより」は、実際に寄せられた質問について、総合図書館が回答した事例の一部を紹介する情報誌です。

■レファレンス受付件数（2016年5月分）

参考	人文	社会	自然	郷土
35	1326	349	357	396
国際	国連	こども	ホピュラー	合計
608	65	832	1381	5349

（開館日 24日 一日平均 223件）

今月の特集！

オリンピック！ パラリンピック！

ブラジルのリオデジャネイロで、8/5～8/21 にオリンピックが、9/7～9/18 にパラリンピックが開催されます。話のタネに、こんな雑学はいかがですか？



Q1：古代オリンピックは宗教行事でした。大会中日にゼウスに供えられた生贄はなんだったのでしょうか？

A：雄牛 100頭

神は煙から栄養をとると信じられ、中日の朝、100頭の雄牛を焼きました。残りは公式の宴会に供せられました。

Q2：近代オリンピックの創始者クーベルタンは、資産をオリンピックのために使い果たし、破産してしまいました。どれほどの金額を使ったのでしょうか？

A：約 17億5千万円

IOCの経費、祝典や宴会の費用全てクーベルタンが出していました。彼を救うために各国が寄付をしましたが、最も多額の寄付をしたのは日本オリンピック委員会でした。

Q3：パラリンピックの原点は、1948年、ストーク・マンデビル病院で行われた大会ですが、この時の競技は何だったのでしょうか？

A：アーチェリー

この病院の患者 16人が参加しました。1960年のローマ大会の時には「国際ストーク・マンデビル大会」として開催されました。

Q4：「パラリンピック」とはどういう意味でしょうか？

A：「もうひとつのオリンピック」

「パラレル（平行）」と「オリンピック」を組み合わせた言葉です。1964年の東京大会から愛称として使われるようになりました。そして、1988年のソウル大会が、オリンピックとパラリンピックを連動させたはじめての大会となりました。

《参考文献》

『オリンピック事典 ポケット版』
（日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会／編）
2008年 2階C13 R780.69
『しらべよう!かんがえよう!オリンピック 1』
（稲葉 茂勝／訳・著 ベースボール・マガジン社）2012年 1階子8 78/シ

《ほかにもこんな本があります！》

『オリンピックと近代 : 評伝クーベルタン』
（ジョン・J・マカルーン／著 柴田 元幸／訳 平凡社）
1988年 閉架書庫 780.69/7
『幻の東京オリンピックとその時代』
（坂上 康博／編著 高岡 裕之／編著 青弓社）
2009年 2階B19 780.21/7





こんな質問がありました！

Q：犬の視点で書かれた作品はないか。小説でも児童書でも絵本でもよい。（人文科学）

“犬”“視点”“一人称”などのキーワードで本の検索やインターネット調査を行い、所蔵している本で内容を確認した。

■小説

『ドン松五郎の生活 上・下』（井上 ひさし／著 新潮社 1975年）閉架書庫 913.6/1

1978年刊の文庫版の裏表紙には“井上ひさし版「吾輩は犬である」”と紹介されている。

『パーフェクト・ブルー』（宮部 みゆき／著 東京創元社 1989年）1階ポ57 913.6/ミヤハ

蓮見探偵事務所の元警察犬“マサ”の視点で語られるミステリー小説。同じ著者による続編『心とろかすような：マサの事件簿』も出版されている。

『ぼくの名はチェット』（スペンサー・クイン／著 東京創元社 2010年）1階ポ59 933/ク

「名犬チェットと探偵バーニー」シリーズの1で、“訳者あとがき”に「本書は、名犬チェットが飼い主の探偵バーニーを助けて大活躍する物語だ。語り手はチェット。」とある。同シリーズは2と3がある。

■児童書・絵本

『ぼくのポチブルてき生活』（きたやま ようこ／作 偕成社 1996年）1階子ども10 913/キ

犬のポチブルが風やくじら、電車に手紙を書くお話。同じシリーズで2と3もある。

『ゆうたはともだち』（きたやま ようこ／作 あかね書房 1988年）1階子ども小絵本 E/1

「おれ、いぬ。おまえ、にんげん。」で始まる絵本。「ゆうたくんちのいばりいぬ」シリーズの1冊目で、このシリーズは9まであり、別巻もある。

『こどものとも 2011年7月号 あむ』閉架書庫

かっちゃんのうちの“あむ”という黒い犬が主人公の絵本。



■漫画

『のらくろ漫画大全』（田河 水泡／著 講談社 1988年）閉架書庫 J726/タ

「のらくろ」は「のらくろの黒吉が軍隊に入り、失敗を重ねながらも昇進していく物語漫画で、雑誌「少年倶楽部」の昭和六年（1931）新年号に初登場した。」（『日本国語大辞典』より）この他に単行本を何冊か所蔵している。

Q：1950年代の日本の警察官の制服を見たい。（社会科学）

■本で調べる

『ざ・ゆにふおーむ ファッション・デザインの原点』（日本ユニホームセンター／編集 日本ユニホームセンター 1991年）2階D19 383.1/ザ

「日本の警察官」という項目あり。写真はないが、「昭和二十七年（一九五二年）一月には連合国司令官の要望により、上衣の襟を大きくし、肩章を襟の下までのぼし、金ボタンでとめていたのを黒いボタンにした。ポケットは左右胸にそれぞれ一個とし、左右腰部のものをなくした。昭和三十一年（一九五六年）十二月には、デザイナーとその他の専門家の意見をきいて階級章とグレーの夏服が制定された。」との記述あり。巻末「ユニフォームと制服変遷史<1>」の「警察1950年代」のリスト中に「階級章、夏服制定」とある。

『服飾近代史』（遠藤 武／編 雄山閣 1970年）閉架図書 383.1/フ

「昭和二十七年、三十一年、四十三年と改正を重ねて階級章は小型で襟に、夏服と合服はグレーになり、皇太子ご結婚式を機に金色のエポレットと袖章、右肩に飾緒をつけた儀礼服ができた。」とある。

『図説日本洋装百年史』（遠藤 武／著 石山 彰／著 文化服装学院出版局 1962年）

閉架図書 383.1/エ

「警官の制服は、戦後幾度かの改変を重ねて、今日に至った。」とある。昭和33年に改定された婦人警官の冬服、巡査部長の盛夏略服の写真あり。

■インターネットで調べる

警察庁>サイト内検索 警察官 制服>制服、パトカー、白バイ 警察の歴史(警視庁)>

「昭和31年に男性の警察官の制服を全国統一し、〔以下略〕」とある。

写真は年代の表記がなく、1950年代の制服であるかどうかは不明。

【http://www.npa.go.jp/kouhousi/police-50th/history/equipment/uniform_old.html】



Q：アサリの資源管理に関する資料と、アサリが自然環境に与える影響についての資料はあるか。(自然科学)

■本で調べる

『アサリと流域圏環境：伊勢湾・三河湾での事例を中心として』

(生田 和正／編 日向野 純也／編 恒星社厚生閣 2009年) 2階 E12 664.72/7

生息環境の実態や環境保全についてなど資源管理の面での論文が10本載っている。

『水産業における水圏環境保全と修復機能』

(松田 治／[ほか]編 恒星社厚生閣 2002年) 2階 E12 660.4/ス

「内湾干潟の浄化能と貝類の生物生産」という論文が載っている。

『守ろう・育てよう日本の水産業 3』(坂本 一男／監修 岩崎書店 2016年) 1階子6 66/7

児童書だが、有明海の事例を挙げ、熊本県の対策についてコンパクトに紹介している。

『すぐ調べられる「環境と生き物」 2 アサリは海をきれいにするの?』

(内山 裕之／監修 学研 2005年) 1階子4 46/ス

これも児童書だが、アサリが水を浄化する実験が載っている。

『水産資源・漁業の管理技術』(北原 武／編 恒星社厚生閣 1998年) 2階 E12 661/ス

「二枚貝資源管理の今後の展望」という論文が載っている。

『豊穡の海・有明海の現状と課題』(大嶋 雄治／編 恒星社厚生閣 2012年) 2階 E12 663.96/ホ

アサリではないが、「有明海におけるハマグリが生息状況と資源管理へ向けた取り組み」という論文がある。

■インターネットで調べる

水産庁>分野別情報 > 技術開発の成果>二枚貝漁場における問題点と環境改善技術>アサリ>「二枚貝漁場における問題点と環境改善技術」

【<http://www.jfa.maff.go.jp/j/kenkyu/pdf/pdf/3-1.pdf>】

水産庁>分野別情報>資源管理の部屋>資源管理指針・資源管理計画>資源回復計画>「熊本県アサリ資源回復計画」【http://www.jfa.maff.go.jp/j/suisin/s_keikaku/pdf/kumamoto_asari.pdf】



Q：インドの詩人タゴールが大正時代に来福しているが、その時期と宿泊した所を知りたい。(国際)

■本で調べる

『タゴール著作集』別巻(タゴール/[著] 第三文明社 東京 1993.5) 2階 B24 929.88/タ

巻末に年譜があり、①1916(大正 5).5.29~9.2、②1917(大正 6).1 月末~2 月中旬、③1924(大正 13).6 月、④1929(昭和 4).3.22~3.28、⑤1929(昭和 4).5.10~6.8 の計5回来日している。この内、③1924(大正 13).6 月には「長崎→別府→福岡→下関」との行程の記述がある。

■新聞を調べる

当時の地元の新聞「福岡日日新聞」の1924(大正 13)年6月の記事を調べると、6月2日夕刊に、「昨日長崎より来福・・・栄屋に入り・・・今二日朝六時博多発大阪に向かった」との記事がある。従って1924(大正 13)年6月1日に長崎から福岡に来て、「栄屋」と言う旅館に泊まったことが分かる。

※「2階C1」などと表記しているものは総合図書館の棚番号です。また、「813.1」などと表記しているものは分類番号で、数字の左にRが付いている資料、郷土資料は貸出ができませんので、館内でご覧ください。本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



今月の一冊！

『新日本山岳誌 改訂』

(日本山岳会／編著 ナカニシヤ出版 2016年) 2階 C11 R291.03/㉔

日本山岳会が創立110周年を記念して刊行した山岳事典。内容は大きく2つに分かれ、まず日本の山の特徴を全体と各地方の山地別に解説。本編となる山の解説も山地・山脈別になっています。調べたい山が決まっている場合は、見出しとして取り上げられている山や峠の索引が巻末にあるので、こちらを利用すると便利です。この本によって山の成り立ちや地質を始め、登山口までの交通、山頂までの簡単な道順も分かります。



使ってみました ⇒ 福岡市民にはおなじみの「油山」を調べる！

巻末の索引を使います。油山は標高597m。福岡市の南西部、早良区・南区・城南区にまたがっており、脊振山地の北の外れに位置する。山名は、天平年間(729～749年)に渡来した清賀上人がゴマ(ツバキとの説もある)を栽培して油を採り、近隣諸寺に灯明油として贈ったことに由来する。山体は白亜紀花崗岩からなる。コースは多方面からあるが、一般的には最短コースの市民の森から吊り橋を経由して山頂に至る(約1時間)等の説明がある。



総合図書館 専門図書 新刊案内

新着本の一部を紹介します。読んでみたい本がありましたら、気軽にお尋ねください。

	書名	著者名	出版者	請求記号	タイトルコード
人文	共感覚から見えるもの	北村 紗衣／編	勉誠出版	141.26/キ	1000001474345
	老生	賈 平凹／著 吉田 富夫／訳	中央公論新社	923.7/チ	1000001468138
社会	日本人の考え方世界の人の考え方	池田 謙一／編著	勁草書房	361.9/イ	1000001471615
	日本髪大全	田中 圭子／著	誠文堂新光社	383.5/タ	1000001473504
自然	ひまわりの黄金比	根岸 利一郎／著	日本評論社	463.7/ネ	1000001467955
	骨とはなにか、関節とはなにか	伊藤 宣／著	ミネルヴァ書房	491.36/イ	1000001475249



今月の展示 ～総合図書館2階 展示図書のご案内～

毎月4つの部門でテーマ展示をしています。貸出も可能ですので、是非ご覧ください。

《人文科学》

スポーツ

《社会科学》 **ブラジルと南米の国々**

《自然科学》

山と人

《国際》

スポーツと平和